**7月4日　高知県安芸郡馬路村　村長　上治　堂司　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

「自分たちの村には何もないということを自覚してから新しいことを創造する必要がある」という言葉が印象に残りました。自分には何もない、ということを自覚してから、諦めることが多いので、そのスピリットを学びたいと思いました。特別住民票制度のアイデアはとてもすごいと素直に思いました。まさか、住民になるなんてアイデアがあるとは思いもしませんでした。また、「ごっくん馬路村」という商品名がとても秀逸だと思いました。「村を売る」という最終目的をダイレクトに伝えていることが大切なのだと学びました。また「新しい商品や、企画を見るときにデメリットだけを挙げるのではなく、良い面をきちんと評価する必要がある。」という言葉は印象に残りました。私たちは無意識に新しいものを見るとき、デメリットを見がちなので、この言葉は胸に留めておきたいと思いました。(経営学部　1年)

馬路村については、昔父が知人から頂いた馬路村商品で知り、「ゆずの村」という印象をずっと持っていました。また、馬路村が村全体で商品を作っていることは本や新聞の記事などで以前から知っていました。その馬路村独特の発想や商品を作って形にするその行動力はとても素晴らしいと感じていました。今日のお話を聞いて、改めて村のことを多くの人に知ってもらいたい、多くの人に来てもらいたいという思いで、工夫をこらしているのだなと感じました。特に、「人より先に早く始めることが大切」という言葉は、馬路村の商品開発や観光客誘致の発想や行動力につながっているのだと思いました。また、バラ風呂やその後のあじさい風呂のお話にもあったように、いろいろ工夫していても成功している例もあれば失敗することももちろんあるのだと、あたり前のことではありますが思いました。その上で失敗をいかに生かすか、ということを考えられることが次の成功につながるのだと思いました。（経営学部　１年）

本日はすばらしい講演をありがとうございました。村と聞くと、何もないイメージで、高齢の方が多く、活力がないという気がしていましたが、馬路村は、そうではなく、「ない」ことを逆手にとって、村を紹介し、また馬路村にしか「ない」特徴を活かして村を活性化させていることが分かり、また、現在のインターネット社会をうまく利用し、全国に発信しており、社会の変化にうまく対応していると感じました。実は、僕は徳島県出身で、とても親近感を感じながら聞かせていただきました。講義中に回されていたバッグ類もとてもよい品質で、欲しいと思いました。東京オリンピックも見据えているということで、馬路村の活発さには本当に驚かされました。馬路村のさらなる発展を願っています。（理工学部　化学・生命系学科　２年）

コンビニ、高校、塾がないというのは、若者がどんどん外に出て行ってしまうのだろうなと感じます。化粧品のヒットのお話を聞いていて思ったのは、その地域の特色をしっかり出した商品を打ち出せばメディアが取り上げてくれて認知度が高まるということ。やはりメディアの力はすごいという印象でした。なんとかして人の目に自分たちの村の情報を触れさせる努力は全国の村が見習わなくてはならないと感じた。「人より先に始める」、人の真似ではだめだというのはなるほどと感じた。馬路村はとてつもない努力とアイデアでここまで成長できたわけだが、全国には限界集落と言われ、あまり特色もなく、衰退していく地域も多いが、そういう地域も、もう一頑張りして再生してほしい。今日は素敵なお話とお土産をありがとうございました。地方創生について関心が深まりました。（理工学部　機械・材料・海洋系　１年）

馬路村という村自体をブランド化しようと様々なことをしていらっしゃっていましたが、このブランド化は、地域の発展だけでなく、企業の発展にも必要なことだと再認識しました。また、ゆずや木材など特産品や村に沢山あるものを利用した身体によい自然由来の商品や温かみのある商品を売り出しているのを聞いて、最近注目されている“化学成分を利用していない身体にいいもの”や馴染みのある“温かさ”と合っていて、とても素敵だと感じました。自分の村の売り出しの上手さに驚きました。(経営学部 1年)

最近の人気ワードである6次産業を具体的に知ることができました。まず村のブランドを確立するためには資源にどのように付加価値をつけるかが大切で、必ず世間のニーズをとらえることが大切だと思いました。またそのニーズに応える際に、どのように応えるかも重要です。公演前は村長ということで行政的で、柔軟に動くのは難しいのかなと思っていましたが、お話を聞いてとても柔軟で経営的な戦略を実行していることを知って考えが大きく変わりました。大きな市などにはできない、村ならではのことだと思いました。（経営学部　経営学科　1年）

上治さんの、悪いところだけでなくいいところを見るという言葉が印象に残った。馬路村で販売しているカバンの耐久性は大丈夫ですか、水がすぐに浸通するのではなど、木のカバンへの悪い面をみようとする質問に対して、あなたはカバンをもって風呂に入りますか、と返した上治さんの言葉がその通りだと思った。物事の悪い面しか見ないと新しいものに挑戦するのを避けてしまうが、本当にそのことだけに当てはまることなのか見極める必要があるのだと思った。馬路村では商品の開発だけではなくて、人を呼べるような多くの取り組み、挑戦をしていてすごいなと思った。本日はお忙しい中わざわざお越しいただきありがとうございました。（経営学部　会計・情報学科　２年）

会社の“経営者”ではなく、村の“経営者”という意味合いの違う方で今日はいつもと違い、聞いていていろんな発見があった。しかし、会社の経営と違うところもあり、とても面白かった。“人よりはやくやってみる”“やってみよう”という精神は会社につながるところがあり、自分も大切にしようと思った。この町おこしはどこに目をつけるか、どの産業が盛り上がるかなどもこれから役に立つなと思った。小さな村はいわば“ベンチャー企業”であり、精神とかといったものは変わらないんだなと感じた。とても有意義な講義でした。ありがとうございました。（経済学部　１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

かねてから気になっていた馬路村のお話を聞けてとても面白く興味深かったです。将来、一度でいいのでぜひ訪ねてみたいと思いました。　また、そのように思わせるだけの村(自分)の魅力を伝えるのが非常にうまいのだと思いました。相手にいかに「行きたい」「楽しそう」と思わせるか、それだけ村(自分)のことを理解してポイントをしぼって長所を伸ばしているのだと思いました。そのよに、今後の就職活動において、自分のポイントをいかに伝えるかを考えていきたいと思いました。(理工学部　３年)

自分の身の回りにあるものを最大限活かして、商業で大きく活躍でくることを知って、自分も身の回りのことをしっかりと整理して、最大限そのことを活かして、自分を活かせるようなことをしたいと思いました。（経営学部　経営学科　１年）

村づくりと企業の経営は共通点がたくさんあると思いました。どちらも必ず「壁」ができ、のりこえるのが難しいことが出てきてしまう……。そこで大事になってくるのが強い思い。村づくりで一番大事なことは「時代の流れをつかむ」などではなく、「地域を守りたい‼」という思いで仲間と団結することが大事だと思いました。これは企業経営だけではなく、他の部活にも通じると思ったので、」これから部活では、「同じ思いで団結すること」を大事にしたいです。（経営学部　経営学科　１年）

知識としてのみ知っていた六次産業に対し、実例の話を聞いて多少の実感を持てた。正直、しょうもないだろうなと思っていたが、想像を大きく超えた技術力の高さに感嘆の息が洩れた。自分の知識の甘さ、実感の伴わなさに対し情けなさを覚えた。実感を伴う知識への昇華を心掛けたい(経済　経済　1年)

**授業スタッフの感想**

本日の馬路村の村長さんのお話は、かねてから期待していたものであり、私にとって、とても参考になりました。自治体が経営戦略的に地元ブランドの創出を取り組みかつ成功している事例は、なかなかないものだと思います。馬路村の特殊性から、このモデルを他地域にそのまま適用することは難しいと感じました。しかし、「危機感」が大事だということは改めて認識させられたことは、良い収穫でした。そして、「危機感がないと勢いが少しずつ無くなってきて、気づくと後の祭り」のお話は、リアリティーがあり、恐ろしい話だと思いました。自分の地域について考えると、市民の一部だけでなく、できるだけ多くの住民に「危機感」を広めることが地域活性に踏み込める前提になりそうだと思いました。

まずは、大学で学べる基礎的な能力を確かなものにし、地域を活性化するビジネスモデルを作り出せるようになりたいです。また今回、質問を考えていてもとっさに言い出せないことがあり、自分の悪い癖として直さなければいけないと反省もしました。何もせず、チャンスを活用できないのは愚の骨頂であり、貴重な機会を可能な限り生かしていきたいと思います。

県庁おもてなし課、政経の資料集で読んで以前から興味のあった馬路村村長の講演とあって、この講義の初週から楽しみでとても期待していたものでした。そして、その期待を裏切らないとてもいい講義でした。地域ブランドづくりの徹底ぶり（ガードレールも名刺、鞄といった普通は木を使わないものを馬路村産の木を使ったり、うちわや鞄、名刺等にみられるおしゃれさ）に目を見張り、ブランドづくりをするときのお手本にしたいと思いました。トイレの話も聞け、行政がこのように積極的な理由も、強い危機感と分かり、他にも多くの物を得ることができました。春休みに観光客としてではありますが、馬路村に行って、どんな風になっているか、実際に見てこようと思います。

村長の熱に感動しました。その後のお食事の際に言われた、「若い時に何でもやり！若けりゃ寝んでも仕事できる。今しかない馬力を使わんでどうすんの。」という言葉は結構自分の中に響きました。名刺が木から作られていたのも粋でかっこいいなと思いました。貴重なお話ありがとうございました。